

令和7年度広島市食育推進会議 会議要旨

1 開催日時

令和8年1月21日（水）19：00～20：30

2 開催場所

広島市役所14階 第7会議室

3 出席者

(1) 委員（16名）

渡部委員、川崎委員、高藏委員、小畠委員、濱岡委員、元廣委員、福田委員、谷迫委員、迫本委員、浦辺委員、大村委員、北原委員、浦田委員、畠田委員、加納委員、渡邊委員

(2) 事務局（11名）

（健康福祉局）

保健医療担当局長、保健部長、参与(事)健康推進課長

（市民局）

生涯学習課長

（こども未来局）

幼保企画課保育園運営指導担当課長、

こども青少年支援部母子保健担当課長（代理）

（環境局）

環境政策課長（代理）

（経済観光局）

農政課長（代理）、水産課長

（教育委員会）

健康教育課長、指導第一課長

(3) オブザーバー

広島県健康福祉局健康づくり推進課 主任

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴人

0名

6 議事

(1) 広島市食育推進会議 副会長の選出について

(2) 令和7年度の取組状況及び今後の食育推進について

(3) 令和8年度食育に関する調査について

(4) その他

7 配付資料

- 資料1 令和7年度 第4次広島市食育推進計画に係る主な取組（本市関係分）
資料1－別紙 広島県スーパー・マーケット協会と検討した掲出物及び店内放送原稿
(一部抜粋)
- 資料2 令和7年度 第4次広島市食育推進計画に係る主な取組及び令和8年度計画
(広島市食育推進会議 委員推薦団体分)
- 資料3 令和8年度 食育に関する取組について
- 資料4 第4次広島市食育推進計画の最終評価と次期計画の策定について
資料4－別紙1 令和8年度「食育に関する調査」の実施について（案）
資料4－別紙2 広島市食育に関する調査（案）
- 資料5 「広島市安佐北食育交流センター」チラシ
- 参考資料 中間評価を踏まえた重点取組について

8 会議要旨

- (1) 広島市食育推進会議 副会長の選出について

事務局

本日は委員改選後の初会合となる。副会長は、広島市食育推進会議条例第4条第3項に基づき、委員の互選により1人置くこととされている。どなたか御提案等があればお願ひする。

元廣委員

大学で食育に取り組んでおられ、これまで副会長を務めていた渡部教授にお願いしてはどうか。

事務局

元廣委員より、副会長を渡部委員にお願いしてはという御提案があつたが、いかがか。

（異議なし）

事務局

副会長は、渡部委員に決定する。これからの議事進行は、渡部副会長にお願いする。

- (2) 令和7年度の取組状況及び今後の食育推進について

渡部副会長

今年度の行政の取組について、事務局から説明をお願いする。

（事務局から、資料1に基づき説明）

渡部副会長

各団体から、資料2に基づき、中間評価を踏まえた3つの重点取組を中心に、今年度と来年度の取組について説明をお願いする。

濱岡委員

広島市歯科衛生連絡協議会では、ローカルラジオ局の健康番組において、歯科的な視点に立った食育に関する話題を提供している。今年度は、「早寝早起き朝ご飯の大切さ」や「噛みング30を知っていますか」という話題で放送し、朝食の摂取とよく噛むことの組合せにより、健康面はもちろん、脳の覚醒により、眠気が覚めて、午前中の勉学や勤務にも良

い影響がある点などを伝えた。

令和8年度は、中間評価で悪化していた2項目に共通する課題である「若い世代」にアプローチするため、ラジオ放送での啓発に加え、SNS等を活用した取組を継続する予定である。なお、今年度は、「おくちの健康展」の開催時期を6月から4月に変更したが、過去最大の来場者があり、大盛会となった。来年度も今年度と同様に開催予定である。

元廣委員

広島県栄養士会では、食育啓発運動として、乳幼児及び保護者を対象とした食育セミナーを実施し、朝食摂取の大切さ等について啓発活動を行った。また、「おくちの健康展」に加えて、広島県栄養士会の各支部で「栄養の日」事業を実施し、スーパーマーケット等の場で、栄養バランスのとれた食事等について啓発した。

令和8年度は、今年度と同様の内容で、件数等の拡大・拡充を目指して実施予定である。

迫本委員

広島県スーパーマーケット協会の中で、弊社の事例になるが、「若者世代における朝食摂取の優先度をどうやって上げていくか」という課題を考え、SNSやアプリ等を活用し、朝食をとるメリットを伝えるとともに、「これに置き換えると、たんぱく質や食物繊維をもつと手軽にプラスできる」等、より有効的な朝食をとってもらえるように情報発信した。

また、無理なく続けられる健康週間として、「しっかり朝食」の考え方から、「まずは何か1口」であったり、「簡単にさっと食べられて、必要な栄養がとれるタイムパフォーマンスの高い朝食」として、「タイパ朝食」のフェアを組む等、これまでの取組を刷新している。その他に、ベーカリーコーナーや焼き立てパン等を拡充して、翌日の朝食においしいパンを召し上がっていただきやすくなる仕掛けや、ECサイト(商品を販売するウェブサイト)で朝食特集と銘打ち、朝食に食べたくなるような商品の提案を行っている。

教育機関との連携では、大学と共同で「こどもと学ぶ食生活デザインプロジェクト」を立ち上げ、料理教室やイベントで朝食摂取の啓発等を行うとともに、プロジェクトに携わる大学生の食生活リテラシー向上に繋がる活動を行った。

来年度は、今年度の取組を継続しつつ、ブラッシュアップしていきたいと考えている。

高蔵委員

広島市私立保育協会では、保育園の給食の中で、みんなと楽しく食事をするために、食事のマナーも大切であることを伝えている。また、保育参観等で保護者に食の大切さを伝えている。令和8年度も同様に実施する予定である。

北原委員

広島市食品衛生協会では、今年度から、食品衛生責任者養成講習会の空き時間を活用し、「わ食の日」に関する内容のスライドを放映して啓発を行っている。また、今年度は、フラワーフェスティバル期間中のこどもの日に、手洗い事業を実施した。

来年度は、今年度と同様の取組を行う予定であり、コロナ渦以降から実施できていない料理教室の開催についても検討している。

浦田委員

広島消費者協会は、シニア世代の方に会員になっていたいいる団体である。社協主催のものではあるが、私の在住エリアで実施されている地域いきいきサロンで集まって食事をする取組は、自分で作った料理を持ち寄る方も増え、食べるだけではなく、食材の調達や料理を作ったいきさつ等を話し合う貴重な場となっている。「みんなで食べる」というのは、食欲がわいて、健康の基になるものだと実感した。個人的に参加することで、シニ

アの食に対する意識のあり様に直に触れる機会は、今後も大切だと思った。これからも、コミュニティでの共食を継続していきたい。また、より広げるためにも他団体との共食に向けたぬくもりの感じられるイベントなどを楽しんでいきたい。

なお、広島消費者協会の産地交流会では、江田島オリーブファクトリーを訪問し、オイルに関する学習等を行った。

畠田委員

ほぼ全地区で開催されている「こども食堂」は、地域のニーズに合わせて参加対象者の幅を「誰でも！」と広げたり、親しみやすい食堂名をつけたり、それぞれで工夫して輪食の楽しさや重要性を伝える活動を行った。

メニューのレシピ紹介や季節にあった工作コーナーやモルックなどの軽スポーツを取り入れたりして、食事をするだけでなく、多世代の交流、コミュニティーの場所にしてきた。

民生委員児童委員の役割は、相談、見守りと情報提供、関係機関へのつなぎ役なので、これからも食育などのチラシやリーフレットで地域への周知に務めていきたい。

福田委員

広島市農業振興協議会では、地域農業の振興と地産地消の推進、並びに次世代を担うこども達への食農教育の充実として、各種事業に取り組んでいる。

学校給食への支援として、広島市内産農産物を安定的に供給するとともに、広島菜や祇園パセリ等の地域振興作物を活用した献立作りに協力した。また、地域の農業祭や品評会に参加し、広島市農業の振興を図った。食農教育活動では、広島菜や祇園パセリを題材とした体験型の授業を実施し、伝統野菜の理解を深める取組を行った。

地産地消ツアーでは、ミニトマトや大長なすの収穫体験を実施しており、祇園パセリをテーマにしたツアーも今年度実施予定である。農畜産委員会では、夏休みのこども畜産教室として、牛の農家での体験イベントを開催した。

ひろしまフードフェスティバルでは、広島菜漬や広島菜餃子、白木町産米「にこまる」のおむすび、砂谷牛乳のジェラート、祇園パセリを使用した春巻き等を販売するとともに、広島市産米のパネル展示を行い、広島市産米の特徴や魅力を発信した。マツダスタジアムでは、8月に広島市産小松菜の漬物や広島菜餃子等の販売し、幅広い世代にPRを行った。

今後、新たな取組として、広島市食農コーディネーターと広島市農業振興協議会会員農家の連携強化を行うとともに、体験型授業や各種イベントを通じて、広島市産農産物とひろしまそだちのPRを強化し、地産地消の推進を図っていきたいと思っている。

谷迫委員

広島市漁業協同組合では、ひろしまフードフェスティバルでカキフライの販売を行った。「広島かき子ども体験隊」は、小学生を対象に牡蠣の収穫体験と試食等を行うもので、今年度は規模を縮小して3月に開催予定である。

なお、牡蠣の養殖について説明すると、収穫まで約3年かかり、時期によって牡蠣いかだを適した漁場に移動させる等の作業をしている。夏には海面近くが高温になるため、牡蠣を吊っているワイヤーを1本ずつ吊りなおして海面深くに移動させるという膨大な作業も行う。このような作業を行って、3年かけてできた牡蠣が収穫直前で死んでしまい、ショックは大きいが、来年や再来年にかけて収穫できるように取り組んでいる状況である。

浦辺委員

日本チェーンストア協会中国支部では、地産地消コーナーの展開と高校生や大学生が育てた畜産物の販売発表会を実施した。

地産地消コーナーでは、生産者の顔写真や商品のアピールポイントを記載した販促物、

のぼり等の設置を行っている。畜産物の販売については、主に農業高校や農業大学校の生徒や学生が育てた牛や豚、青果等を商品化するとともに、店頭に高校生や大学生が立って販売している。地域の方や保護者が店舗に訪れ、盛況である。なお、商品化に当たり、授業で店頭に並ぶまでの流通ルートや商品化に当たって必要な要素について話をしたり、食肉工場や市場見学等を行ったりしている。また、生徒にブランド名や販売促進用シールのデザインを考えてもらい、店頭に並べるということもしている。

来年度も同様の取組を進めていきたいと思っている。

大村委員

株式会社セブン・イレブン・ジャパンでは、「ええじゅろ！広島フェア」として、広島県産の牛乳、豚肉、小松菜、ほうれん草等の農畜産物を活用したメニューの展開とPRを行った。また、子供議会と連携し、子どものアイデアを商品化に生かす取組も行った。来年度は、今年度の取組を継続しつつ、食育事業に力をいれていくことを考えている。

また、小学生が育てた広島菜の取組をもっと外にアピールするきっかけになるように、給食に出せるようにメニューを考えたり、出前事業で地産地消について話したりしていきたいと思っている。地元でとれたものをもっと価値あるものにするために、自社で野菜の調達基準を定めて認証するような枠組みを設け、生産者の担保にも取り組みながら、持続可能なひろしま産の農畜産物をさらに活性化できるように取り組んでいきたいと思っている。

小畠委員

広島市医師会では、アレルギー疾患対策委員会やアレルギー対応研修の開催等、食物アレルギーへの対応を行っている。また、学校では、成長曲線や肥満度を用いた栄養指導も行っている。

渡部副会長

これまでの説明を聞いて、質問や意見はあるか。

福田委員

昨年、米の価格が高騰した。その背景に、家庭の中で、食材について支出の抑制があったのではと推測している。消費者が食材選びに対して、何かが高くなると何かを抑えるというアンバランスを食の中で抱えざるを得ない消費行動になっていると思う。そのことが一番重要なのは、子どもの食生活に影響することだと思っている。この点について、広島県スーパーマーケット協会や日本チェーンストア協会において、バランスのよい食事をとれる提案を進めていただくとありがたい。セブン・イレブンでも、時短で、家でも作れるようなレシピを提案していただけたらと思う。例えば、セブン・イレブンで販売している広島市産小松菜と豚肉の玉子炒めは、とてもおいしく、家でも作れそうで、バランスもとれたり、消費者の心に響くものだと思う。こういったものを継続してほしい。そのため、私達も一生懸命作り、前向きに取り組んでいきたいと思う。

渡部副会長

連携した取組をされている状況が伝わってきた。広島県スーパーマーケット協会や日本チェーンストア協会においても、いろいろな連携した取組をしておられると思うので、連携という観点から御発言いただきたいが、いかがか。

迫本委員

レシピ提案について、事務局から説明があった資料1－別紙のとおり、来年度は農政課

と連携した野菜のレシピを御提案したいと思っている。米食が減少した部分について、弊社でも、米食からパスタやうどん等の麺提案をする機会が増えたが、米食を麺食にすると食材量は減ってしまう。そのため、野菜の部分でプラスもう一品とっていただくという点を引き続き取り組んでいきたいと思う。

浦辺委員

レシピ提案という点では、「生活旬彩」という冊子で旬の食材を使った料理の提案やSNSでの発信をしているので、今後、充実させていきたい。また、健康やバランスという点では、自社ブランドの惣菜等で何かできればと考えている。

渡部副会長

学識経験者、市民委員及びマスコミの立場から、各団体の取組を踏まえて意見や感想があればお願ひしたいが、いかがか。

川崎委員

350gの野菜を手のひらで1食ずつというのは、非常に分かりやすく取り組みやすいと思った。広島市ではないが、男性のみが参加する会で、実際に野菜を計量して350gを当ててもらうクイズを実施する等の食育活動をしているところであり、各年齢層に幅広く取組を行うことは大切だと思う。

若い世代の野菜摂取が課題だが、若い人がカットされたキャベツを買っている様子を目にするので、食べやすさの点では敷居が下がってきているのではと思っている。

渡邊委員

広島生鮮產品連絡協議会で、ひろしまそだちを使用した料理教室に参加した。その際に、野菜や乳製品はすぐに広島産のものを探すことができたが、豚肉はなかなか見つけられなかった。豚肉は、「国産豚肉」という名前で販売されており、広島産という銘柄やパッケージがないので、手にとりやすい形で販売されると、広島産のものを取り扱いやすくなると感じた。なお、料理教室は親子対象に実施した。アンケートでは、こどもだけではなく、親自身も楽しかったという声があり、実際に体験することが食育のアピールにつながると感じた。

また、シニア世代の地域コミュニティでの共食はとても大事だと思っている。大学生も、100円朝食があったり、フード トラックが来たりしている時は「朝食を食べようかな」となると思うので、そういう場を提供するために少し活動ができたらと思っている。

加納委員

いろんな取組をされており、マスコミとしてもお役に立てるような取組をしていきたいと思った。広島のブランドを地域で応援していけるような空気を作っていきたいと思う。

若い世代が朝食を食べない理由として、大学への進学に伴って一人暮らしを始めたことで生活のリズムが変化することが関係していると感じている。また、価格の高騰による影響が朝食に出ていているのではないかと思う。なかなかアプローチは難しいが、なるべく経済的な負担も含めて取組を進め、若い世代が朝食をとるような状況になればと思っている。そのために何ができるかをマスコミの立場からも考えてていきたいと思う。

渡部副会長

来年度の行政の取組について、事務局から説明をお願いする。

(事務局から、資料3に基づき説明)

(3) 令和8年度食育に関する調査について

渡部副会長

令和8年度食育に関する調査について、事務局から説明をお願いする。

(事務局から、資料4に基づき説明)

渡部副会長

事務局からの説明について、意見や質問はあるか。

(意見等なし)

(4) その他

渡部副会長

資料5について、事務局から説明をお願いする。

(事務局から、資料5に基づき説明)

渡部副会長

本日の議事について、質問や意見はあるか。

(意見等なし)

渡部副会長

本日の議論を踏まえて、今後も充実した食育の取組ができるよう、また、団体間においても連携した取組を行い、発展した食育の取組が行われるよう、引き続き、皆様方の御協力をお願いしたい。

事務局

活発な御意見を頂き感謝する。食育に関する調査については、本日の会議及び国が策定予定の第5次食育推進基本計画を踏まえて実施する。来年度は年3回の会議を予定しているため、よろしくお願いしたい。